

地域医療提供体制データ分析チーム構築支援事業の概要

1 趣旨目的

地域医療構想の実現に向けた取り組みを推進するため、当該事業により幅広く地域課題などの現状把握や地域の医療需要の推移、医療資源等に関してデータ分析を行い、地域医療の課題の抽出を図る。

2 データ分析の体制

- 診療に関する学識経験者（京都大学・京都府立医科大学）
- 医療関係団体（京都府医師会・京都府病院協会・京都私立病院協会）
- 地域医療構想アドバイザー

3 分析内容

- 利用データ
医療保険レセプト、介護保険レセプト、健診データ、DPCデータなど
- 分析概要
 - ① 医療資源利用の地域差
 - ・ 急性期入院・外来患者数の地域差
 - ・ 地域間の越境受診〔国保レセプト〕
 - ・ 医療資源へのアクセスの地域差
 - ② 医療需要の将来推計〔レセプト〕×〔将来人口推計〕
 - ③ 医療従事者数の将来推計
 - ④ 医療体制の持続可能性
 - ・ 医療職1名あたりの患者数・住民数
 - ⑤ 医療機関間連携の可視化
 - ・ 疾患別に見た広域的な病院間連携
 - ・ 在宅療養実績加算など病診連携
 - ⑥ 5疾病6事業(+在宅)のロジックモデルと連携した地域別臨床指標
 - ⑦ 8年間の疾患コホート追跡による診療過程の可視化
 - ⑧ 必要に応じて誰でも随時手軽に分析可能な基本的データセットの整備

4 スケジュール

- 令和5年5月～ 事業内容にかかる関係者協議、データ分析開始
- 令和5年11月～ 分析結果に基づく考察
- 令和6年3月 病院向け分析結果報告会の開催
- 令和6年9月～ DPCデータの収集・分析
- 令和6年10月～ 各地域医療構想調整会議での報告
- 令和7年3月 病院向け分析結果報告会の開催